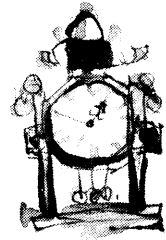


養護と教育



牛 島 義 友

一、幼稚園は教育する所であり、保育所は養護を主とする所である。したがって、保育所に通う子どもは教育を受ける権利

を失うから、幼稚園と保育所は一元化しなくてはならないといわれたり、あるいは保育所は保育の中でも十分教育的機能が含まれていて、しかも養護と教育が一体となつて行なわれるので、幼稚園とは別個の存在であり、一元化必ずしも望ましくないと反対している。したがって今日の幼児保育の中心問題は養護と教育の関係をめぐつて展開しているといつてもよい。しかし元来教育とか養護とかの概念もあいまいであるので、この論争は水かけ論にもなりがちである。

元来教育とは何ぞやと聞き直り、ここで一つの定義を行なつてみても、それはここだけの話で一般の論争には役立たない。それでむしろ教育などという言葉は幼児の世界からは捨てて、昔ながらの保育というあいまいな言葉で子どもの問題を考える

方が実際的である。しかし一応教育的機能と養護的機能で問題を取り上げると、ある程度考え直す必要もおこる。

教育を非常に狭い意味にとり、学校教育の中の知識教育である授業や学習に限定すれば話は簡単であり、幼児の世界にはこのようなものはないといえよ。あるいは幼稚園教育の中での授業らしいものを行なわれているとしたら、それは行き過ぎであると批難してもよい。しかし学校教育の中でも生活指導という大きな分野があり、また教科学習の場合でも態度の育成が要求される。社会科学の学習は民主的態度を身につけさせるのが、一つの目標でもある。態度とか生活指導が人間形成のためには重要なものとされてきたので、たとえば身辺生活の自立とか社会性の育成というものも立派な教育内容であり、幼稚園の保育もまた教育であると考えようになった。子どものそれぞれの能力や特質に応じて十分に伸ばすことが教育であるともいわれ

る。そうすると、幼児を対象とした計画指導は当然教育であり、また精神的幼児である精神薄弱児の指導も教育となり、重症児の場合には食事の時間すら教育ということになってくる。少なくとも自分で食べるように育てることが教育である。同じ意味で家庭で授乳の時間をきめてよい習慣をつけようとしているのも教育といわざるを得なくなる。

しかも教育なるがゆえに文部省の所管であり、学校教師の権限であると考えると問題が複雑となる。保育所でやっていることも教育であり、厚生省の精薄施設の教育もまた教育であり、母親の育児もまた教育であり、それぞれの持ち場においてできるだけ子どもの幸せのために努力してほしいというなら話はわかる。しかし、教育だから一元化せよとか、他のやっていることに対し不信の言辞をするのは間違っている。

ただ困る事には経済的な理由で学校教育におもねるような傾向がある。たとえば、保育所に幼稚園という看板を立てて二枚看板にすれば文部省の予算も流れてくるのではないかと、厚生省の精薄施設の中に分教場を設けるのはそれによって何人かの教員が配置され、手不足な施設が助かるために歓迎するといったような傾向が感ぜられる。保育所や施設の職員は自分たちのやっていることが子どもたちにもっともよい指導との誇りを持って持っているならば、外部からの派遣教師は拒否すべきであるし、

また自分たちの要求をどんどん厚生省にすればよい訳である。同じ意味で、もし家庭教育で十分幼児をよく育てる条件があり、自信があるならば、わが子を幼稚園にやることだけに血眼になることをやめて、家庭教育で立派に子どもを育ててもよいはずである。

二、今までは保育所を幼稚園と異質なものとして論じたが、両者は目的がちがいがい、保育時間が相異なるが、子どもに対する働きかけにどのくらいの相異があるだろうか。保育所の年少児と幼稚園児には明瞭な相異がある。しかし四、五歳児の同年齢児に対する働きかけは、いかに相異なるだろうか。このためわれわれは東京、港区における保育所と幼稚園に行つて、保育や教師の子どもに対する働きかけを、詳細に、タイムスタディ式に調査した。そして保育行動を次のように分類して記録した。これは三十秒単位の観察記録であつて、それぞれの三十秒間にとられたおもな保育行動をこのいずれかにあてはめたものである。

●教育的行動

健康…体操・運動的遊び・健康についての話など

社会…行事・社会生活に関するもの、対人関係(けんかも含

める)・役割・当番など

自然…動物飼育・植物栽培・自然現象に関するもの

言語…お話・絵本・紙芝居・劇、あいさつ(出席をとるとき

の返事も含める)

音楽・リズム…歌・楽器・リズム遊びに関するもの

絵画・製作…絵・製作・粘土・砂遊び・積木・パズルなど

●生活指導

集団行動…集合・移動・整列など集団行動に関するもの

生活指導…片づけ、掃除、持物管理など

●養護行動

食事…食事準備・食事の世話・食事態度指導、肝油を服用さ

せるなど

睡眠…昼寝準備・就寝の世話など

清潔…うがい、手洗いの指導や世話、怪我の手当など

着衣…ねまきの着替え、靴・園服・帽子・カバンなどの世話

排せつ…排せつをうながす、排尿便の世話をするなど

その他愛情的接触…身体的接触(抱く、手を握る、愛撫)、一

緒に遊ぶ、訴えを聞く、世話をやくなど

●保育以外の活動

保育準備…整理整頓・掃除・後片づけ・移動、および保育

内容に関する準備

記録…子どもの行動記録、連絡帳記入、製作品に名前を記入

するなど

面接…父兄とのあいさつ、話しあい、父兄との電話連絡

自己研修…保育に関する自己研修(製作品を作ってみる、ピ

アノ楽譜をしらべる、保育関係の雑誌や本をよむ

など)

食事・休憩他…食事や休憩、身支度など保育者自身のための

の活動

子どもに対して、一斉指導の形で保育領域に関する指導をし

ている形は容易に教育的機能を行なっていると見ることができ

る。しかし、どこまでを教育的機能とするかには意見も分かれ

ようが、個々の保育行動から比較できるようにした。

あるいは子どもが鉄棒で遊んでいる場合に危険がないことを

はたで見守っていたり、ただ鉄棒で保母と一緒に遊んでいた

という場合は養護的行動とし、子どもが自分で足をかけて登る

のを教えるために手助けしてやった場合は教育的行動の方に入

れたりした。また三十秒間に二つの機能が見られた場合には、

それぞれのカテゴリに二分の一点入れる形で集計した。

その結果五つの保育所と、五つの幼稚園における合計では表

1のようになっている。

表には各行動の比率を出すために百分率でも表わした。しか

表1 一日の平均

		平均		%	
		保育所	幼稚園	保育所	幼稚園
養護	食事	43.7分	33.7分	11.0%	14.0%
	睡眠	46.6	0	11.8	0
	清潔	9.8	2.3	2.5	1.0
	着衣	19.9	5.9	5.0	2.4
	排せつ	1.5	2.2	0.4	0.9
	愛情接触	21.4	24.8	5.4	10.2
教育	健康	9.9	10.8	2.5	4.5
	社会	8.6	6.9	2.2	2.8
	自然	0.1	1.4	0.0	0.6
	言語	35.1	52.4	8.9	21.6
	音楽リズム	30.2	16.8	7.6	7.0
	絵画製作	20.5	27.4	5.2	11.3
生活指導	集合他	10.9	23.1	2.7	9.5
	しつけ他	7.9	8.0	2.0	3.3
保育準備その他	保育準備	32.6	14.3	8.3	5.9
	記録	30.1	0.3	7.6	0.1
	打合せ	36.8	4.0	9.3	1.7
	面接	3.7	0.6	0.9	0.3
	自己研修	4.8	0	1.2	0
	食事休憩	21.7	7.1	5.5	2.9
計		395.8	242.0	100.0	100.0

表 2

	午 前		昼 食		一 日	
	保 育 所	幼 稚 園	保 育 所	幼 稚 園	保 育 所	幼 稚 園
養 護	12.6分 (12.0)%	25.0分 (17.1)%	43.9分 (61.3)%	41.1分 (70.3)%	142.9分 (36.1)%	68.9分 (28.5)%
教 育	71.1 (67.5)	79.4 (54.5)	4.6 (6.5)	3.7 (6.3)	104.4 (26.4)	115.7 (47.8)
生活指導	6.6 (6.2)	19.1 (13.1)	1.4 (1.9)	3.1 (5.3)	18.8 (4.7)	31.1 (12.8)
保育準備 そ の 他	15.0 (14.3)	22.3 (15.3)	21.7 (30.3)	10.6 (18.1)	129.7 (332.8)	26.3 (10.9)
計	105.3 (100.0)	145.8 (100.0)	71.6 (100.0)	58.5 (100.0)	395.8 (100.0)	242.0 (100.0)

し元来保育所は長時間であり、午睡とか、自由遊びのような時間があり養護の行動が多くなるのは当然あるので、午前中だけを取り出して幼稚園と保育所を比較した。また昼食事の行動をも比較した。(表2)

これで見ると、幼稚園と保育所との保育行動にほとんど差はなく、教育的機能とみなされる部分はむしろ保育所の方に多くなっていた。また観察による印象によると、両者に差はないように見え、むしろ保育所の保母さんの方に一斉指導や訓練の態度が多く意識的に教育的であるようだった。

幼稚園の方がむしろ自由保育の指導で、子どもの遊びを巧みに誘導しながら保育していた。したがって保育所は教育的でない、教育的刺激分量が少ないとはいえない。

また子どもに対する働きかけを、積極的と消極的、否定的に分けて整理すると表3、表4の如く、保育所の方が幾分積極的と否定的が多くなっており、また全体的働きかけ、個人的働きかけからいうと、保育所の方に個人的働きかけが多く、幼稚園の方が全体的働きかけが多くなっている。個人的働きかけの多いことが、保育として、また教育としてのぞましいわけであろう。

なお、この研究の対象となったものは限られた保育所と幼稚園であり、しかも港区の保育所は設備、陣容において特にすぐ

表3 子どもへの働きかけ（積極・消極・否定）

	保 育 所		幼 稚 園	
	実数(分)	%	実数(分)	%
積 極	149.9	(56.31)	84.7	(55.07)
消 極	98.2	(36.89)	62.6	(40.70)
否 定	18.1	(6.80)	6.5	(4.23)
計	266.2	(100.00)	153.8	(100.00)

表4 子どもへの働きかけ（全体・個人）

	保 育 所		幼 稚 園	
	実数(分)	%	実数(分)	%
全 体	154.5	(58.04)	101.7	(66.12)
個 人	111.7	(41.96)	52.1	(33.88)
計	266.2	(100.00)	153.8	(100.00)

れたものではある。しかし今日保育行政は着々と充実しており、その一人当り措置費と幼稚園における教育費と比べてみても、措置費の方がはるかに高くなっており、将来保育所はますます質的に向上してくと期待される。したがって、ここに現われたような傾向はやがて多くの保育所においても実現されるといってよい。

以上の点から考えても保育所では教育的機能が少なく、子どもを託児しているだけであるという偏見は間違っており、家庭保育に欠けた子どもに対して、長時間の教育と養護を兼ねた保育を行なっている、といってよい。そしてこの姿を幼児に対する適切な教育とみて、それを尊重すべきではなからうか。設備や保育の資格などにおいて劣る点があるならば、それを充実するように援助すればよい。

（青山学院大学）